

# シニア



シユロの葉でカエルを作る鈴木さん(掛川市倉真)

## バツタやカエルを精巧に

掛川市倉真地区は市北部の山あいに広がる自然豊かな田園地帯。倉真五区区长で、掛川茶手もみ保存会掛川支部副会長の鈴木善男さん(六七)建築業は葉っぱを使った昆虫や生き物細工を教える先生役をボランティアで続ける。

### 葉っぱは細工講師

鈴木 善男さん(掛川市)



「出張講師」を務める場合は小学校や図書館、観光施設などさまざま。シユロの葉を細

く裂いて編み込み、バツタカエルを精巧に作る。立体感があり、生きてもらう「お金を払うので譲り方」が多い。鈴木さんがこだわりの方の伝承。「最近の子然のもので遊んだり、ホキリなどの道具の使い方を知らない子が多い。教え方を学んで笑顔で浮かべた時がうれしい」と手先喜びをたくさんの人と共

## 畳からの立ち上がり

使えて便利」と彼は言うので、そこがAさんはひざを痛めて、畳からの立ち座りが少しくなってきた。座っている横に大きな台を置く

### 持ち運び簡単、安定手すりが便利

今回のグッズです。この手すりの足はZ状で安定性が良く、まず倒れる心配がありません。重さは二キ弱



Z状の足で安定性の良い手すり「スタンパーZ」

ですから持ち運びも簡単。直径は三十二センチで握りやすい太さです。これなら好きな場所に楽に置けます(一万二千八百円)28888。

(浜田キ子・高齢生活研究所代表)

## おすすめ生活用品

など工夫をしています。「でも、大きな台は動かしていい場所にも置くのも面倒。ベッドにした方がいいのでは」と言います。

「Aさんは和室が大好きで、夜は布団で寝ています。畳の部屋はごろ寝ができる。それに布団を畳めば和室は広く

その人らしい暮らしを支えること、これはその人のプライドを守ることにのみならず、Aさんは和室が好きですから、それを手放さずにあれこれ工夫をする。それが老いを豊かにするのです。

五円)。

## 食中毒の予防

★食中毒では薬を飲む前に受診 毎年五月ごろから増加し始める細菌性食中毒は、腸炎ヒブリオ(魚介類)、サルモネラ菌(鶏卵や鶏肉類)、病原性大腸菌(牛肉類)などの細菌を食物などとともに摂取することで発症します。特に高齢者は体の抵抗力が弱くなっているため、わずかな菌でも中毒を起こしやすいので注

意が必要です。撃退の三原則は増やさない、やっ生労働省発表) ①生鮮食品を買った後早く帰宅して冷める調理前に器具を③調理時には食熱する一などです。食中毒の場合、服用すると逆効果あります。激しいの症状が出たとき、する前に医療機関でも中毒を起しやすいので注

の木言「身影」(金の目を)に郵送するか、電子メール

イマホアツク

と称した。リートは千点五十円といっけた。(和光)